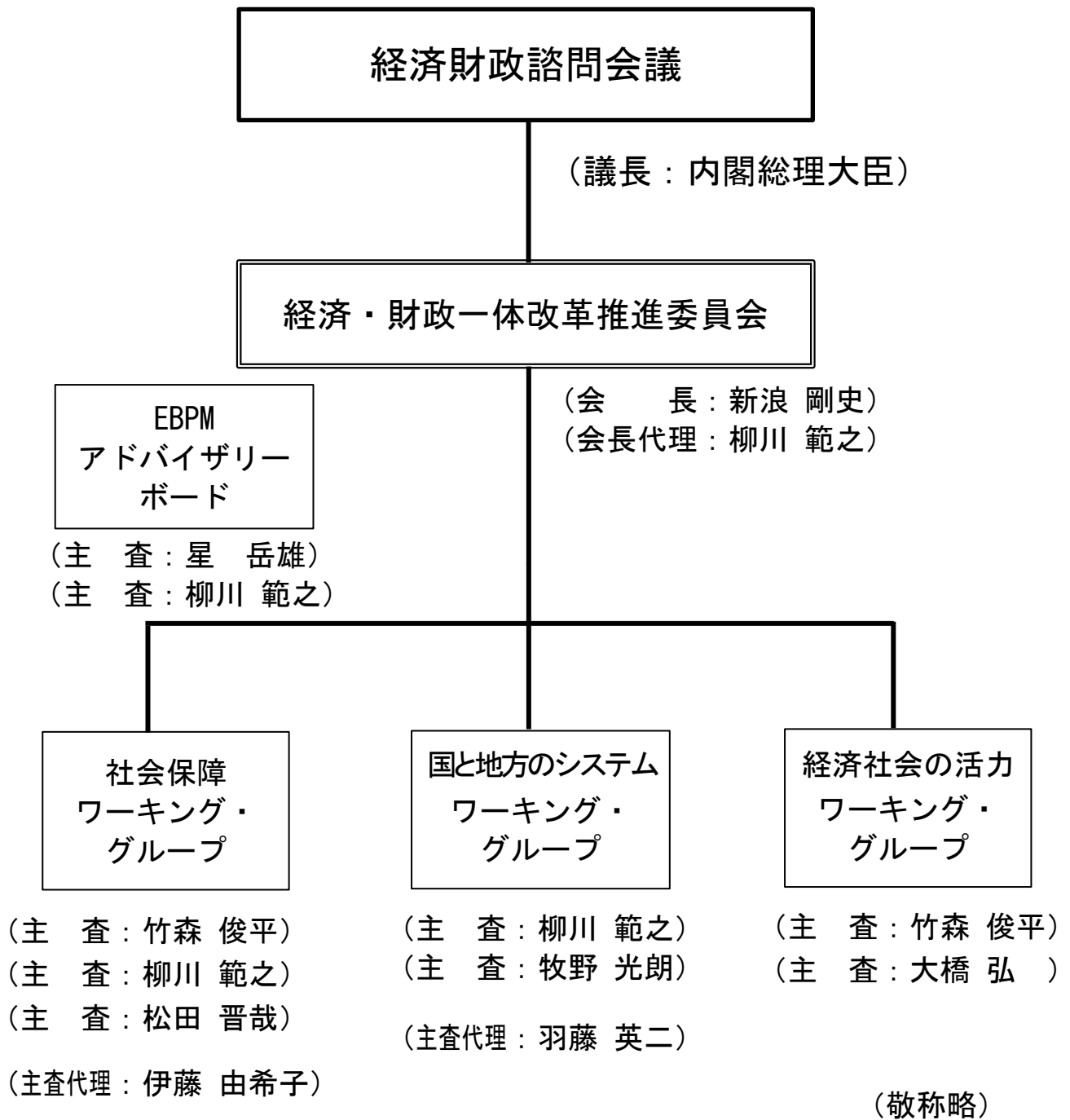


経済・財政一体改革推進委員会の検討体制



EBPM アドバイザリーボード メンバー名簿

	赤井 厚雄	株式会社ナウキャスト取締役会長
	井伊 雅子	一橋大学国際・公共政策大学院教授
	大橋 弘	東京大学大学院経済学研究科教授
	小塩 隆士	一橋大学経済研究所教授
	西内 啓	株式会社データビークル代表取締役
主査	星 岳雄	東京大学大学院経済学研究科教授
主査	柳川 範之	東京大学大学院経済学研究科教授
	山口 慎太郎	東京大学大学院経済学研究科教授

(敬称略、五十音順)

令和2年10月27日現在

第31回 経済・財政一体改革推進委員会 議事要旨（多年度型EBPM関係抜粋）

1. 開催日時：2020年3月23日（月）14:30～16:16
2. 場 所：中央合同庁舎4号館 11階共用第1特別会議室

○宮下副大臣

まず、最初の議題である多年度型事業のEBPMの推進について申し上げる。昨年末に政府が取りまとめた「安心と成長の未来を拓く総合経済対策」には、施策の効果を最大限発揮する観点から、多年度にわたって実施する施策を盛り込んでいる。これらの施策は経済成長に大いに貢献すると考えられる一方で、施策の質の向上を図る上で常に目標を見据えて取り組むことが重要である。

○柳川委員

多年度ということが今回の話の肝であり、多年度においてどういうステップを踏んでいくのか、結局、鶏と卵のようなものがたくさんあるわけであり、鶏と卵の複雑な関係をどういうステップで進めて、実際どうやって動かしていき、最終的に成果にしていくのか。重要な要素は、牧野委員から話があったようなソフトの話であるが、せっかく多年度だからできるステップをしっかりとやっていただきたい。そこを見られるようにしたい。

○神田政務官

本日も活発な議論をいただき厚く御礼申し上げます。多年度型事業のEBPMについては、本日はGIGAスクール構想について、ロジックモデル案の議論をいただいた。内閣府としても、各事業所管省庁のEBPMの推進について、しっかりと協力していきたいと考えており、引き続き検討をよろしくお願い申し上げます。

○新浪会長

GIGAスクール構想については、本日の議論を踏まえ、引き続きロジックモデルのブラッシュアップをお願いしたいと思う。

そのほかの多年度型事業におけるEBPMの検討状況についても、次回以降、委員会で報告をいただきたい。この件は、引き続き議論をさせていただきたいと思う。

第1章第5節（2）感染症拡大を踏まえた経済・財政一体改革の推進

経済・財政一体改革を推進するに当たり、エビデンスに裏付けられた効果的な政策やデータ収集等に予算を優先するなど、EBPMの仕組みと予算の重点化、複数年にわたる取組等の予算編成との結び付きを強化することにより、ワイスペンディングを徹底する。このため、広く国民各層の意識変革や行動変容につながる見える化、先進・優良事例の全国展開、インセンティブ改革等を通じた財政の健全性の確保等につながる取組をEBPMと一体として推進するとともに、**経済財政諮問会議の下、専門家の知見を活用しつつ、EBPMの枠組みを強化する。**

新浪議員発言

<経済・財政一体改革推進委員会（令和2年2月25日）>

昨年末に経済対策に盛り込まれた多年度型の事業に関するEBPMについて、いずれも複数年度で取り組むメリットを活かしながら、財政規律の観点から、同時にその用途や進捗を適切にチェックしていくことが重要。（中略）今後の本委員会において、米国などの海外のEBPMの先進事例や、先ほど、申し上げた3つの事業に関して、各事業所管省庁が作成したロジックモデルの案をそれぞれ報告していただきたい。現在、内閣府においても、とりわけ米国、英国の海外事例を調査しているので、その調査を受けて、海外の事例も踏まえた上で、大臣、事務方とも相談して、**EBPMのワーキンググループの立ち上げも、今後、前向きに検討していきたい**と考えている。

<経済財政諮問会議（令和2年1月17日）>

未来にむけた複数年度での投資はやはり必要だと思う。レジリエンス・防災・教育・科学など、本来やらなければならないものにお金が使えるようにしつつ、他方で**EBPMをベースに予算が有効に使われていく仕組みを作っていくべき**。米国・英国などもそういった仕組みがあり、こうしたものを研究しながら、新たな仕組みを経済・財政一体改革推進委員会の中で提案したい。

今後のEBPMアドバイザリーボードの進め方について

令和2年10月9日
経済・財政一体改革推進委員会
配布資料

- ワイスペンディングの徹底に向けて、経済・財政一体改革推進委員会の下にEBPMアドバイザリーボードを設置し、経済・財政一体改革におけるEBPMの枠組みを強化する。
- EBPMアドバイザリーボードにおいては、以下の点を踏まえて検討を進める。

《 検討のポイント 》

1. 多年度型事業等の重要施策について、各府省によるロジックモデルの構築・精緻化等への知見の提供を通じ、各府省のEBPMの質の向上を図る。このため、政策の質を高めるためのエビデンスを継続的に構築する観点から、研究機関等と協力しつつ国内外の先行事例やデータ活用に関する知見の収集等を行う。
2. 各委員は、新経済・財政再生計画の改革工程表の改定に関し、各WG等における検討に参画し、その知見を提供する。
3. 以上の検討に当たっては、政府全体のEBPMの基盤整備に向け、関係行政機関と緊密に連携して取り組む。

《 今後のスケジュール 》

10月下旬 第1回

- 今後の進め方
- EBPMの好事例に関するヒアリング

11月中下旬

- 多年度型事業等のEBPMの構築